第３回　阪南市総合計画審議会　要旨

日時：令和３年３月 26 日（金）　10：00～12：00
場所：阪南市役所　３階　市役所３階全員協議会室

●ワーケーション

・ワーケーション・NHK 等の取材が来ていることを共有（プロモーション動画約３分）
　→古民家をワーケーションの場所として利用することを検討している（観光協会）
　※動画では、オーシャンフロントの貸別荘を利用

委員長：

・基本構想の前半と後半のつながりがみえにくい。支出を減らす/収入を増やすテーマに特化させ、市民・民間事業者にも手を貸してもらえるようなシンプルな構造（≒共創）が望ましい

●マーケティング

・阪南市をどう売り込むかが重要
　→市を知ってもらうための施策、プロモーションしていく必要がある
　→老朽化した施設や建物の有効活用。古民家や空家の活用等（例：ゲーム博物館、飲食店）
・柱を固めつつ、観光や遊休資産を活用するというような流れを検討

委員長：

・ストック活用が重要。観光、空家活用などが、柱にぶら下がっている形で見えると、戦略性があるように見える。

●子育て支援

・子育て世帯を呼ぶ際に外部環境の整備も重要だが、子育て世代の内面を支える環境を整えることの方が優先されるべきではないか。
　→親自身も子育て等について学べる環境やネットワークを構築する機会をつくる、という部分を念頭に入れてる必要がある

委員長：▷事例：尼崎
　協働を進めるためにも市民みんなが学び続ける必要があるため協働部の中に「生涯、学習！推進課」を設立して、事業を推進している
　⇒目玉の施策は何か、をみんなで議論して固めるべき

●プロモーション

・阪南市の知名度が低いため、「阪南市はこれ！」というものが必要ではないか。
　→委員が聞いた中には貸農園を求める声もあるため、例えば、高槻等の事例を参考に貸農園等を使い知名度をアップさせるなど
　→貸農園を活用した体験型観光に注力するなど
　→未活用の農地については行政に募集してもらうなどの旗振りを検討するべき

委員長：▷事例：茨城市（貸農園との組み合わせ）

⇒西都に広がる貸農園。例：千里山から引っ越して、農園近くでの就業パターンが増加。
▷事例：生駒市（生駒市宣伝部：市民が市の魅力を発信する仕組みとネットワーク作りの場）

・遊休農園を有効活用。
・岬町は、目玉がなにもなかったが、ベーグル屋ができて注目されてから、人が集まる場所となった。
⇒阪南市、夕日百選に選ばれていることをアピール（売れなくてもトライ&エラーをすることが大事）

委員長：愛媛県伊予市は、何もないまちであったが、夕日によって価値が創造され、有名になった。
⇒住んでいる人にとっては「当たり前」、外から来る人にとっては「価値がある」資源があるはず。

●古民家活用
・どこに古民家があるのかわかりづらく、情報を欲しいと思っている人に十分に届いていない可能性が高いと思われる
・借り手と貸し手の間に入る組織の構築や両者の調整・マッチングを促進する必要がある
・空き家コンシェルジュなどの中間支援組織と連携することで、空き家の利活用を促進することが望める。

委員長：
・記載してある資料からの裏付け等、実際にどう動くのかを計画内で提案していく必要がある。
・市と市民の解決（出口）において、認識のズレが生じている。

●起業家支援
・市民が求めている支援と施策とのギャップを感じている
・起業支援と記載しているが実際にどう動かすのか具体的なことについても今後記載していく必要がある
・基本計画では今まで以上に市役所の見え方と市民が感じていることとの認識を合わせる必要があると思われる
・事業をやってみたいと考えている女性は市内に少なくないため、補助金や助成金、設立までの流れなどの説明などの支援が必要
・地域内のプレイヤーを引き合わせる機会や場の整備も必要
・行政として具体的にどんなことをするか、今後精査が必要
・女性の起業支援が乏しいので、活動団体を立ち上げようと準備をしているが、相談しても解決に向かわない。地域に特化した支援ならびに団体活動等の情報を共有する集まり等が必要。

委員長：
▷事例：摂津市（株式会社マミークリスタル）
・摂津市には、母親が輝ける場がなかったため、代表が SNS 等を通して地道に活動し、子育てのすそ野を拡大した。
→市が、様々な能力やモチベーションを持った方をつなげる場を設定できるか。

●共創
・市も対等な立場で市民とともに活動していくことを記載することも必要
・内面的な意識を変えることが求められていて、外面である経済と 2 つの軸がいるのではないか

・内面として社会教育や生涯学習を柱とするのはどうか。プラットフォームや市民が話し合える場所は必要

委員長：

▷生駒市：出会いの場としてのプラットフォーム

⇒行政が実現できる「共創」の具体策を織り込む。

●公共交通・インフラ

・鉄道やバスなど公共交通は一定整備され、人が集まりやすい場所である

●儲けるまちづくりへの転換

・空家利用・市民農園による環境整備・生きがいづくりなど、部署ごとの横のつながりで実現していけるだけの可能性がある

・社会保障なども含め今後も一定の財源の確保が必要で、今あるストックを活かすことも重要だが、新たに市内で事業活動等を行える場所を一定見出すことが必要

・市内のいずれかの場所で基盤整備を行うともに、法人税を下げる等の工夫も行い、市の収入増加に寄与する企業を誘致することも検討する必要がある（スカイタウンの東西　等）

・対象を環境配慮型の企業を想定し、里山管理や環境教育等も見込んだまちづくりにつなげるとともに、様々なプレイヤーが働ける環境を作る

・都市基盤の文言を入れ、場所づくり・環境整備まちづくりのワードを今から入れておくことが必要

▷事例：北加賀谷（みんな農園：空家を活用した独自の取組を展開）

委員長：▷上勝町：ごみゼロ宣言（リサイクル率、90%）

⇒どこまで「尖がった」政策展開が可能か、これからの総計にはそういったものが必要。

●シビックプライドの醸成

・都市基盤を整えることも非常に重要で、その中心をどことし、シビックプライドがどこにあるかを明確にする必要がある

・情報をつなげるという意味でもプラットフォームは重要（オンラインを含む）

▷事例：上勝町、泉佐野市

→エネルギーを地域で担っていくということが進みつつある

▷事例：シンガポール

→スマートシティ構想。地下開発や勾配政策を推進している

▷事例：シュタットベルケ

→自然エネルギーを自ら生み出していこうという考え方（売電等）

●高齢者の活躍

・高齢者をいかに活用するかを取り入れた計画にすることを検討されたい

→技能を持ち働ける高齢者も少なくないため、高齢者の働く力も活用したまちを目指すのはどうか

→これからスキルノウハウで生きていける人を市にどれくらい増やせるかという視点も必要

・働けてスキルもある高齢者が情報得られていない

→高齢者の方がもう一次働くための情報をとれる場所が必要

委員長：考え方に年齢は関係ない。やる気のある人を引き上げて、活動する場を提供できるかが重要。

●情報整理

・立地や下水の整備など、空家や空き地がプレイヤーの求める機能を有しているか確認を行政が行い情報整理する必要があるのではないか
→不動産情報が都会の事業者まで伝わっているか不透明

●まちづくり

・普通科しかない高校に専門科を新設し、周辺から学生を呼び込むことはどうか
→将来の市内定着を図る
・古民家の活用を市で行うことは難しいかもしれないが、どういった活用が望ましいか等については一定方向性を示すのはどうか

▶【HW】前半でまとめている課題に対して後半のつながりが見えにくいため、まだ編集の必要がある
→どの分析を受けて基本構想を描いているのか、課題と分析をシンプルにしてそれに対応するか形で基本計画の柱を設計する方がわかりやすい。
→課題として大きいのは財政が厳しいという点（支出を減らすか収入を増やすという 2 つの柱となる。そこに共創という考え方を入れる→市民や企業の手を借りるなど≒支出の抑制、阪南市の魅力を上げる≒収入の増加）
▶【HW】「一歩先ゆく」は何を指す文言か、またスマートシティなどの ICT を視野に入れるのはどうか、またカタカナの文言等は一般的な解釈ではなく、阪南流にマッチした言葉になっているか確認
▶【HW】最先端の情報も集め、阪南市で取り組んでいくことも検討